

第37回全国ハイグリーン研修会 開催

8月21～22日の猛暑の折、東京ガーデンパレス（東京）にてエムシー・ファーティコム(株)アミノ・ミネラルグループ主催の全国ハイグリーン研修会が開催された。北海道から鹿児島県まで全国27社のハイグリーンを取り扱う特約店が参加し、当社・メーカー関係者合わせて総勢73名となり大変盛況となった。

第1日目の講演では、兵庫県立農林水産技術総合センター農業大学校嘱託の渡辺和彦先生より「ミネラルの動きと作物・人間の健康」と題して講演がなされた。渡辺先生には以前にも当会にてご教授頂いているが、ミネラルに関する研究や健康に関する最新の技術情報と知見について説明がなされ、ハイグリーンに含まれる成分についての農作物への働き、人間の体についての関わりについて日本のみならず世界で実証されたデータをご紹介頂きながら、ミネラルの必要性を説かれた。ケイ素については植物が菌に感染した場合、ケイ素があると抗菌物質ラムネチンを発生させ防除作用が働くことや、活性酸素を発生させ全身獲得抵抗性を持つことが確認出来たとの知見が紹介された。また、人体では骨粗しょう症では一般的にカルシウム摂取が効果的とされているが、カルシウムの骨密度への効果よりもケイ素摂取の方が効果は高いというデータが示された。マグネシウムについては苦土も「根肥え」であるということで、光合成にて生産された糖を根や果実に転流させるために、植物体内の伴細胞においてマグネシウム（含むカリウムも同様）が制御していることが示された。また、堆肥を施用していれば微量元素は必要ないという認識は間違いであるというデータが示されて、目からウロコのような新しい知見が加わった。また、人体においては食欲不振や床ずれ、味覚障害は亜鉛を含む薬を処方し改善される例が報告された。また、ハイグリーンには含まれていないが、ケイ酸を吸収しない作物においてカルシウムの重要性についても紹介があり、硝酸カルシウム施用によって発病しにくい効果が得られたとのデータも紹介され、とてもアカデミックな内容ではあったが今後の現場への応用が期待出来る内容であったため、とても参考となった。

2日目には体験発表として、(株)丹波屋旭川支店（北海道）保原雅也氏よりハイグリーンの拡販方法について発表がなされた。保原氏は担当地域の農業情勢を調査され、そのデータに基づきターゲット作物を選定。メーカーの協力を仰ぎながら現場で生産者と共に施肥効果を確認し、地戦略的に拡販す

(次ページへ続く)



農林水産技術総合センター農業大学校 渡辺和彦先生

《お悔み》

去る8月12日、当社青果部長加藤誠治（享年55歳）が急逝致しました。猛暑の中、通夜・告別式には多数の方にご参列賜り、また多く皆様より弔意を賜りました事、厚く御礼申し上げます。加藤部長は平成2年に入社し、当社設立時のオープニングスタッフとして、また、農産部（現在は青果部）立ち上げの際にも自ら買って出て大阪支店勤務から本店青果部に転身され、同部の発展に尽力されました。加藤部長の語り口と親しみやすい人柄は皆に愛されました。当紙面では編集委員の一員として、主に青果業界のトピックス記事編纂に携わって頂きました。当社でも「食と農の架け橋」の実践部隊のリーダーのひとりとして積極的に産地に入り、多くの生産者と交流を深めておりました。その中での突然の訃報に接し、全社員一同悲しみに暮れております。生前大変お世話になりました皆様には故人に成り代わりまして、厚く御礼申し上げます。

(前ページより続く)

ることが必要と説かれた。

「新しいコメビジネスの展望」商経アドバイス 中村専務講演

ハイグリーン研修会では、最近のコメの動向についても説明がなされた。農水省より発表された7月31日のデータでは民間流通における6月末在庫は222万トン、需要実績の推移として速報値で785.3万トンとし前年比は4.2万トン増となるも平成24年度から25年度にかけての需要量が32.2万トン減少したことが大きな影響を与えている一方、本年は過剰作付が増加、さらに豊作も重なり供給過剰となり、25年産米の流通在庫は50～65万トンとなる予測もあるという。25年産よりも26年産のコメが安くなる「親不孝相場」も懸念され、コメ卸業者はまだ24年産在庫も抱えているところがあり古米・新米とも安売り合戦が起こると指摘された。ここ数年の価格変動と今年の下落の大きさは過去に例のないもので、コメ卸は大幅な価格変動リスクを回避するために事業の多角的展開と生産地への接近を今以上行っていくであろうとした。これは全体のパイが縮小化する中で流通業者においては産地との複数年契約等の業務提携を行い、生産者も流通も永続的な安定取引を行っていかねばならない方向性にあるとし、こらからのキーワードとなると説かれた。



株丹波屋 保原氏

21UK会現地研修会開催 IN 福島

去る8月7～8日、エムシー・ファーターティコム株主催の21UK会現地研修会が福島県会津若松市、白河市にて開催された。北海道から長野県までの特約店9社、当社・メーカー関係者総勢34名となり大変盛況となった。台風11号の余波で時折雷や雨交じりの現地研修会となったが、現地では一発肥料の試験となっており、コシヒカリでの他社品と比較した実証現場が確認出来た。ここ最近の高温で生育が3日ほど進んでおり一発肥料も切れ気味に推移する懸念があったが、エムシー・ファーターティコム社品の一発肥料の展示圃は他社品と比較して葉色が薄くなっておらず、商品の特徴が伺えた。近年では圃場の大規模化・生産者の高齢化に伴い一発肥料のニーズが年々高まっており、そのニーズに対応した取組が求められている。視察当日もとても湿度の高い蒸し暑い中での視察で、とても追肥作業が出来る状況にはない天気であった。



現地では既に出穂期を迎えていた。今年の会津コシヒカリは茎数も取れてこのまま順調にいけば豊作傾向間違いない。この状況とは裏腹に福島県会津地方でもやはり3年前の福島県第二原発事故の風評被害に見舞われており、会津のコメはスーパー等に精米袋で並んでいないのが現状で主に業務用筋に流通しているようだ。セシウム吸収対策も取られており、塩化カリウムやケイ酸カリが3要素肥料とは別に施肥されている。このカリウム施肥がここ3年の稲の粒張りに功を奏しているようで、とても良い品質が保たれているようだ。現地のコメを集荷する肥料販売店のコメントではコメの消費減退に歯止めがかからず米価が下落傾向にある。その中でいかにして省力で多収穫出来るかが今後のポイントとなってくるとの話を頂けたのは、まさにその通りに違いないと確信した次第であった。また、メーカーは独自の商品開発も続けられておりその中間報告も聞かれ今後の新商品が楽しみとなっている。21UK会の益々の発展を祈念致したい。

お悔みにある通り、先日加藤部長が急逝致しました。当紙面に名前こそ出ないものの、青果関連の記事のほとんどは加藤部長によるものでした。編集会議の際に紙面作りに難航すると、「出張ついでに何か取材してくるよ!」と買って出てくれたり、紙面を埋める小ネタを集めてくれたりと、欠かせない存在だっただけに、今後の紙面作りに不安もありますが、加藤部長のフットワークの軽さを損なうことなく、全員で遺志を引き継いでいきたいと思っております。

編集事務局：南部、助川